

## 県央・林業部トピックス（1月号）

シカによる林業被害の調査を実施しました。

中国山地のニホンジカは、高い捕獲圧等により明治末期に姿を消したと考えられていましたが、近年は隣県からの流入により県境の市町において、目撃や捕獲数が増加しています。そこで、循環型林業拠点団地や林業公社収穫事業実施地においてシカの生息状況や被害状況を把握して、被害対策につなげるための林業被害調査が令和5年度から全県でスタートしました。本年度は、循環型林業拠点団地を対象に調査をすることになりました。県央事務所管内では、大田市3か所（富山町地内、三瓶町地内、山口町地内）と邑南町2か所（和田地内、鱒淵地内）の調査地を設定して調査を行いました。大田市三瓶町の造林地ではシカによる被害は確認出来ませんでした。富山町と山口町で「わずかな被害」が確認されました。一方、邑南町では、造林地の「ほぼ全体」でシカによる樹皮剥ぎや主軸、枝葉の食害が確認されました。

大田市では、近年シカが目撃情報が住民から多く寄せられるようになってきました。そのためシカの分布拡大による林業被害の発生を見越して、森林組合がシカ捕獲の新たな担い手となるために大田市、大田市森林組合、県央事務所で時間をかけて体制づくりの検討を重ねてきました。そしてこの度、大田市から大田市森林組合へ業務委託する形でのシカの捕獲がスタートしました。市が森林組合にシカの捕獲を委託することは、県内では初めての取組みであり、今後継続していくための仕組みづくりに取り組んでいく必要があります。



スギの樹皮剥ぎ（三瓶町）



ヒノキの樹皮剥ぎ（富山町）



大田市森林組合のシカ捕獲研修



大田市森林組合のシカ捕獲研修